

資本主義「第3の危機」と日本

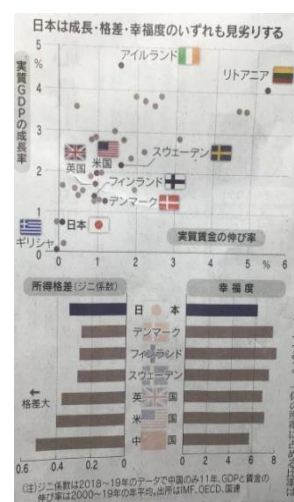
日本経済新聞 1月1日 1面に「資本主義 創り直す」と大きなタイトル。リードから。資本主義が3度目の危機にぶつかっている。成長の鈍化が格差を広げ、人々の不満の高まりが民主主義の土台まで揺さぶり始めた。戦前の大恐慌期、戦後の冷戦期と度重なる危機を乗り越えてきた資本主義は再び輝きを取り戻せるのか。成長の未来図を描き直す時期に来ている。

いま直面するのが「第3の危機」だ。過度な市場原理主義が富の偏在のひずみを生み、格差が広がる。格差は人々の不満を高め、それが民主主義の危機ともいわれる状況を生み出した。資本主義と民主主義の両輪がうまく回らなくなり、世界では中国を筆頭とする権威主義が台頭する。混沌とする世界で日本は生き残れるのか。現状は心もとない。GDP 成長率は年平均 0.7%と北欧を下回るのに、ジニ係数は 0.33 と北欧より高く、幸福度は低い。

バブル崩壊から 30 年。日本経済は低空飛行が続く。雇用の安全を重視しすぎた結果、挑戦の機会を奪われた働き手はやる気を失う。30 年間も実質賃金が増えない「国民総貧困化」という危機的状況を生み出した。

閉塞感に包まれた日本の経済が活力を取り戻す道筋はどこにあるのか。各国の経済・社会データから作った見取り図に浮かぶのは、公正な競争と社会の満足度向上を両輪で促すことだ。物心で豊かな社会が成長の熱気と呼び戻す。写真下の表では主な国々の経済・社会指標を一覧にした。指標ごとに先進 34 カ国に比べて数値が優れるものをより赤く、そうでなければ青(斜線)で塗り分けた。各国と比べた日本の現在地を上から順に解いていこう。

まず GDP と賃金の過去 20 年の伸び率をみると、日本は GDP で年率 0.7%、賃金で 0.1%とゼロ近傍にある。ほかの国はかつての 5%を超えるような高成長ではないものの、GDP で 1~2%、賃金も 1%前後と安定を保つ。この差を生むのは生産性だ。時間あたりの労働生産性が米国や北欧で 60~70 ドル台なのに対し、日本はわずか 48 ドル。世界で最も深刻な人口減少に陥る日本では、生産性を高めないと経済成長は見込めず、賃金も上がらない。



北欧は成長と幸福度を両立させる
経済・社会指標の各国比較

先 先進国平均 後

	先進国平均	日本	米国	英国	フランス	ドイツ	デンマーク	フィンランド	スウェーデン
経済の成長率	2.24%	0.7%	1.97	1.70	1.30	1.26	1.28	1.39	2.18
賃金の伸び	1.38%	0.01	0.96	0.93	1.03	0.90	1.18	0.91	1.58
労働生産性	58.27%	48.14	74.19	61.27	67.60	66.94	75.41	61.37	70.64
所得格差	0.31	0.33	0.40	0.37	0.29	0.29	0.26	0.27	0.28
貧困層の割合	11.0%	15.7	18.0	12.4	8.4	9.8	6.4	6.5	9.3
教育への投資	10.6%	7.8	11.5	11.7	8.5	9.2	11.4	9.7	12.9
男女の平等	0.76	0.64	0.76	0.78	0.78	0.80	0.77	0.81	0.82
社会の信頼度	0.58	0.64	0.70	0.46	0.57	0.46	0.18	0.51	0.24
医療への費額	214.1	42.0	223.0	376.8	208.4	173.1	421.3	429.2	522.2
健康寿命	70.7年	74	66.1	70.1	72.1	70.9	71.0	71.0	71.9
治安	1.67	1.35	2.23	1.73	1.93	1.65	1.29	1.35	1.48
失業率	5.98%	2.53	5.21	3.87	3.48	3.44	5.26	7.27	7.16
幸福度	6.80	6.12	7.03	6.80	6.71	7.31	7.52	7.05	7.31

(注) IMF, OECD, 国連, WHO, ILO, 世界経済フォーラム, 世界幸福指数調査, 経済平和研究所のデータから作成。OECD加盟の国所集約のデータも指標ごとに比べ、相対的な数値の大きさに応じて色分けした。

(2021年1月3日)